

平成25年度特別養護老人ホーム「千寿の園」事業報告書

第1 概況

1 利用率と財務について

平成25年度は、以下の2つの要因により収入が減少した。

①短期入所生活介護（ショートステイ）の制度的変更による収入減があった。県より同日利用（夕方までに利用が終了しても、別な人をその終了者の後に利用させることが出来ない。1日の最高利用は定員を上限とすること。）が禁止されたことによるものである。

②昨年末から1月、2月とインフルエンザの災禍にあい、短期は停止、入居も新規入居者を受け入れできない状態となり、利用率の減少＝収入減に繋がった。

支出について人件費は抑制できたが、特殊浴槽の更新購入、建物備品の修繕・工事などがあり、収支は若干のマイナスとなった。

※当初予算収入に対し実収入割合、入居 100.6%・短期 95.1%（△145万円）

※利用率 24年度 入居 99.0% 短期 84.5% ・25年度 入居 98.6% 短期 81.6%

2 「おむつ外し」（水分量の確保等）の実践について

全国老人福祉協議会第11回介護力向上講習に延べ18人の職員が参加し、かつ、先進施設である灯光園施設長による講演を職員全体で聞き、灯光園独自の報告会への参加、他団体等が主催する「おむつ外し（排泄ケア）」研修会へ積極的に参加し、「質の転換・向上」に努めた。3年計画としての取り組みであり、初年度の取り組みにおいては、オムツ外しの実践に対して職員間の考え方にまだバラツキがあり、歩行の促進など職員の体力的負担増もあり、次年度以降の課題として残されている。

3 社会福祉施設としての貢献

25年度では、地域包括支援センター依頼の虐待ケース1人の入居を受け、退去者としては、生活保護3人（1人は菊川市措置第1号、3人共福祉課ケースワーカーと共同支援）の利用者を見送ることが出来た。

4 ひきこもり支援事業を中心とした社会的地域貢献（連携）事業の展開

ひきこもり支援事業は市社会福祉協議会と共同で取り組んできており、対象者1人が26年度より一般就労者として当施設に就労するまでに至った。また、本実践の取り組みは静岡県社会福祉協議会ひきこもり支援啓発DVD「地域福祉における若者自立支援」に取り上げられて映像化され、全県下の関係機関に配布されている。

地域貢献（連携）事業としては、地域ケア会議・地域ケア実務検討会の構成メンバーとして、また、菊川市立総合病院の事業評価委員、磐田市立病院の研修医実習施設、菊川総合病院及び市内社会福祉施設等連絡協議会の中心施設として引き続いて貢献してきており、26年度発足予定の「菊川地域医療を守る会」の準備会にも参画している。

5 家族との協働強化に向けて

3ヶ月に1回、担当介護職員が家族に入居者の様子を手紙にして報告することを続けており、永眠者家族(17人)に対しても担当職員から思い出、弔意の手紙を送っている。

介護事故は軽易な事故でもひとつ一つ、関わった職員から家族へ伝えることを原則としおり、安心を与えることへの努力を重ねてきている。

第2 全体の状況

1 利用状況（利用率）

平成25年度の利用率は、長期入居98.6%（前年度99.0%）、短期入所81.6%（同84.5%）となった。25年度は年末から1月にかけてのインフルエンザA型が2階を中心に蔓延（職員3名・入居者21名）し、次いで2月には3階でインフルエンザB型を中心にA型含む感染（職員6名・入居者11名）があり、入居者・短期入所の利用率が落ち込んだ。

24年度に退去された利用者は21人（30.0%）、25年度は19人（30.0%）で亡くなった利用者17人の平均要介護度は4.1、平均年齢87.7歳、入居された方の平均要介護度は4.2、平均年齢は87.4歳であった。

入居までの平均所要日数は24年度が7.0日、25年度が10.0日であり、インフルエンザの影響が表れている。

（単位 %）

区分	25年度	24年度	増減
長期入居者70人	98.6	99.0	△0.4
短期利用者10人	81.6	84.5	△2.9

2 経営状況（経営活動による収支）

平成25年度の収入は、325,284千円で、主な内訳は、介護保険収入320,526千円、その他収入2,967千円、補助金等1,791千円である。

一方、支出は、325,434千円で、主な内訳は、人件費216,049千円、事業・事務費等96,419千円、施設整備・借入金償還等12,966千円であった。

また、借入金の償還は、福祉医療機構へ元金6,070千円、利息620千円、元利償還金合計6,690円である。

収入

（単位 千円）

区分	25年度	24年度	増減
介護保険	320,526	322,142	△1,616
その他	2,967	3,023	△56
補助金等	1,791	2,140	△349
計	325,284	327,305	△2,021

支出

区分	25年度	24年度	増減
人件費	216,066	233,948	△17,882
事務、事業費等	96,419	92,924	3,495
施設整備・償還金等	12,966	18,086	△5,120
計	325,451	344,958	△19,507

3 職員状況（部門別職員数）

平成25年度末の常勤職員は33名で、内訳は介護職員23名、看護職員3名、事務室職員7名である。また、非常勤職員は、嘱託職員・医師を含め26名で全体の職員数は59名である。

（平成26年3月31日現在）

（単位 人）

区分	事務室			介護職員	医務室	調理	計
	施設長 副施設長 介護部長	相談員・主任・事務・居宅・管理	送迎担当 清掃員・洗濯員	主任 副主任 一般	看護 師・嘱託 医師	管理栄養士	
正規	3	3	—	23	3	1	33
非正規	—	2	5	12	7	—	26
計	3	5	5	35	10	1	59
25年同期	3	5 (2)	5 (5)	38 (12)	10(7)	1	61

注) 1 () は、非正規職員

2 他に産休、育休中が2人

人材確保は、非常に困難を極めており、一般的な介護労働力不足に加えて、建設後30年を経た多床室の建物であり、若者層の就労には繋がりにくい。千寿の園において平成23年度以降の3年間で、採用した職員は正規8（男4・女4）人、非常勤1人（女）の9人であるが全員既婚者である。専門養成校新卒は22年の1人から採用が出来ていない。なお、5月に介護職員が勤務中に急変し永眠となったのが極めて残念であった。

4 施設整備等の状況

- (1) 特殊浴槽の更新購入を行った（520万円）。
- (2) 2階に壁掛けテレビを設置した（29万円）
- (3) 天井照明修繕等計37の修繕工事を実施し、施設機能の維持に努めた。

5 特記事項

- (1) 全国老協介護力向上講習会「おむつ外し（水分補給）」の実践
 - ①期 間：平成25年5月～26年3月
 - ②対象人員（入居者）：水分70名・歩行12名

- ③評価：A 水分摂取量（目標 1,500cc）25.5 764cc→26.3 1,110.5cc
B 下剤使用者 25.5 66/70人（94%）→26.3 23/70(32.8%)
C トイレでの座位排便 25.5 37/70(52.9%)
→26.3 51/70(72.9%) ※依然 19人がおむつである。
D 介護度 4・5 の歩行(全員車椅子)→10人が歩行器、2人がシルバーカー。

(2) 菊川市社会福祉協議会「ひきこもり支援検討委員会」活動

①受入活動：浴槽清掃業務

②受入人員：1名（男性 28歳）

③活動日：平成 24 年 9 月 3 日（月）から週 1 回で始め、平成 25 年 3 月では週 3 回の活動（中間的就労）となり、平成 26 年度からは週 15.5 時間の一般就労として時間給で労務できるようになった。

(3) 家族・利用者の声に耳を傾け寄り添う活動

①家族懇談会 6/8（土）開催—参加 28 家族（36 名）。

3 カ月に 1 回、全家族へ利用者状況の手紙を出していることを報告した。事故に対する家族報告の可否（レベル）アンケートのお願い。25 年取り組みの「おむつ外し」の説明等を行った。

②利用者懇談会 12 月 2 日（月）2 階 11 名・12 月 3 日（火）3 階 10 名。

出された要望：トンカツ、フライドポテトが何回言っても出ない。小国神社他へ外出したい。風呂の介助は女性利用者については女性にお願いしたい等が出された。

(4) 施設行事

①夏祭り（旧納涼祭）—7 月 20 日（土）利用者家族 30 世帯 55 人・来賓 11 人・ボランティア 11 人で利用者と一緒に「二人羽織」「ロシアンルーレット」などを楽しんだ。また、ビール、冷酒等もたしなみ楽しむことが出来た。

②敬老祝賀会—9 月 14 日（土）利用者家族 19 世帯 26 人・来賓 11 名参加。全体では、スミミュージックプロダクションの歌唱、フロアでは「握り寿司ライブ」を行い、自分で選んで食べるという「**選択の楽しみ方**」が出来た。

③新年祝賀会—1 月 3 日（金）年末から始まったインフルエンザの猛威により 2 階フロアは中止。3 階のみで「千寿神社」にお参りしたり、甘酒を飲んで楽しんだ。

(5) 磐田市立総合病院 初期研修医 研修の受入

「地域医療」研修—計 4 人（6/26・7/8・9/10・11/11・1/8*インフルエンザで中止）

第 3 部門別の状況

1 管理・事務部門

(1) 全体運営（マネジメント）について

テーマは 1 運営の基本をトップダウンからボトムアップにすること。2 P D C A (計画→実施→点検→処置) サイクルを用いること。3 科学的エビデンスのあるケアを展開することとした。

視点は利用者・家族・職員・地域・社会の4つである。

25年度はリーダーシップを担う職員の資質を上げ、ボトムアップに繋げるために、幹部職員研修・主任業務者研修・副主任研修と中間管理、指導層を育てる取り組みを行った。また、トライアングル会議(フロア主任1・副主任2)を創設し、リーダー間において意思統一し、共通する実践への取り組みをP D C Aを土台におきながら実践していくことを目標化した。

科学的エビデンスのあるケアへの取り組みは「おむつ外し」の実践を通す中で事実を記録すること、原因を探ること、データ化することの重要性を学ぶことが出来た。

同時におむつ外しの実践は、今までの介護実践の質的転換であり、まだまだ、全員の意識が転換できたとは言えず、課題は残されている。

(2) 老朽化、事務合理化への取り組み

老朽化・改修への必要性は年々重要度及び頻度が増しており、管理室主任を中心に懸命な努力を重ねてきた。

2階の中間浴槽は温度が上がらないことにより、25年8月より使用中止になり、入浴をほとんど1階の一般浴槽と特殊浴槽でカバーすることになり、介護職員の導線の変更、業務内容の変更が余儀なくされた。10月には特殊浴槽の更新購入を実施した。

依然、一般浴槽のお湯を張ると旧館2・3階の水道が止まるという現象は続いている。

事務業務においては、①事務職員が全体の業務の流れを把握して、業務するように管理運営会議へ出席するようにした。②法人経理事務職員会議に出席し、法人内の事務の統一化を図る話し合いをした。③介護保険請求のミスを防ぐため生活相談員・管理栄養士等との情報を共有し、二重チェックを行うことで、請求漏れ・請求間違い等のない事務を遂行することができた。④利用者負担金が徴収不能金にならないよう催促を行い施設経営に貢献した等の努力が上げられる。

(3) 諸会議開催状況

①職員全体会 3回

ア 第1回ー6月7日(金) テーマ「おむつ外しに向けた取り組みと実践を学ぼう!!」 灯光園澤島久美子施設長講演・松下浩之介護職員実践報告。

イ 第2回ー10月23日(水) テーマ「①水分、おむつ外しの実践経過報告・②リスクマネジメント委員会(事故防止)から事故分析、担当からの視点」を発表。

ウ 第3回ー3月17日(月) テーマ「ディペート おむつ外しに取り組んで」利用者にとっておむつ外しの実践で得るもの・大変なことを論議した。

②管理運営会議 12回(4/24・5/27・6/21・7/24・8/21・9/25・10/23・11/25・12/20・1/22・2/25・3/17)

③専門会議

- ア 介護部主任・副主任会議 12回(4/24・5/27・6/21・7/24・8/21・9/25・10/23・
11/25・12/20・1/22・2/25・3/17)
- イ トライアングル会議 2F 12/16 6名 3F 2/5 6名
- ウ 介護部フロア会議 2階フロア 2回(5/6・7/25)
3階フロア 5回(5/8・7/24・9/23・11/14・3/11)
- エ 介護部グループ会議
2階大空グループ 4回(4/24・6/12・8/31・10/11)
2階輝きグループ 3回(4/15・6/26・8/20)
3階愛グループ 3回(4/9・6/12・8/15)
3階若さグループ 3回(4/11・6/13・8/9)
- オ 介護力向上委員会 12回(4/24-9・5/27-11・6/21-9・7/24-8・8/21-9・9/25-7・
10/23-8・11/25-9・12/20-9・1/22-9・2/25-11・3/17-11*一線以下は参加人数)
- カ リスクマネジメント委員会(事故防止・苦情解決・身体拘束廃止・褥瘡対策
止・個人情報管理) 12回(4/24-14・5/27-14・6/21-14・7/24-11・8/21-14・
9/25-14・10/23-15・11/25-14・12/20-16・1/22-16・2/25-17・3/17-15)
- キ 「ようこそ新人さん!」若手介護職員グループワーク 1回(10/31 5名)
- ク 食生活改善委員会 10回(4/30-5・5/27-10・7/24-8・8/28-6・9/25-10・
10/23-10・12/20-10・1/22-11・2/25-9・3/26-8(*一以下は出席人数))
- ケ 医務室会議 6回(4/26・6/28・8/30・10/25・12/20・2/28)

(4) 研修活動

◇OJT(職場内研修)

- ①感染症対策研修(ノロウイルス対応) 11/5 20名・11/12 13名 11/19 17名。
②幹部職員研修 10/11 4名 ☆運営評価-静岡県福祉サービス第三者評価項目及
び事業計画を使用して中間総括の実施(PDCA→CHECK)。
③主任業務者研修 8/16 9/17 10/15 各6名出席
④副主任研修 3/10 5名

◇OFF-JT(職場外研修)

①第11回全国老協介護力向上講習会

- 第1回 5/23・24 3名 第2回 7/18・19 3名 第3回 9/19・20 3名
第4回 11/21・22 3名 第5回 1/16・17 3名 第6回 3/19・20 3名

②灯光園第3回おむつゼロ達成報告会 11/10 2名

③排泄ケア講座「おむつを外し尿失禁を改善する」 12/24 2名

④法人研修「社会福祉論」 8/29・9/5 延べ4名

〃基礎研修「生活支援技術」9/12~10/24 7回 延べ14名

⑤その他の職場外研修・出張

ア	公的出張（県老協総会等）	10回 17人
イ	中東遠地区職種別研究会	6回 6人
ウ	高齢者福祉大会「発表」等他の職場外研修	19回 25人

2 介護部門

(1) ケアの方向性の明確化

①介護力向上に取り組み、経験主義からの脱却、科学的根拠（エビデンス）に基づいたケアを展開する。

②「オムツ外し等」職員全体で大きな課題に取り組むことによって、目指すべきケアの方向性を明確にし、意思統一を図りケアの質の向上を目指す。

以上の2点をテーマに1年間の実践に取り組んだ。

システムとして、1日の流れを組み立てる「リーダー制」を8月9日より導入した。

「リーダー制」により介護職員一人ひとりが、その日の自分の業務をより把握出来るようになり、また、介護力向上実践へ取り組むことによって「自分の担当入居者」という意識が定着してきた。総括として以下のように示す。

ア 業務内容（水分介助・歩行訓練・トイレ誘導等）が増えた事で1日の業務を終える事で精一杯な面がある。ゆとりをもった関係作りが今一つ実践できなかった。まだこの実践は初年度という事もあり、手探り状態での対応となった。今後は業務レイアウトの中に「個別性」を組み込んでいけるかが課題と思われる。

介助を気にするばかり、入居者の生活からみたケアの発想ができなくなった面があり、実践に繋がるケースは少なかった。事前の計画をしっかりと立て、家族の協力を求めていく事、業務の調整能力等を身に付ける必要がある。

イ 介護力向上への取り組みは個別ケアに繋がっているが、現状は水分摂取量と歩行機能の回復が主となっていて、『誰の、何の為の水分を促しているのか、歩行訓練を行っているのか』、目標を入居者主体で考えていく必要がある。この思いに近づけるために水分を飲んでもらうというように、入居者の真の思いを引き出せるようコミュニケーション等を通じて職員が聞き取る、感じとる事ができるようにしたい。

ウ ケアについて家族の思いを確認していく事の重要性を改めて感じた。今年度の大きな取り組みである介護力向上は、入居者、家族にもリスクがある取り組みであり、事前の説明は必要不可欠であったが、あいまいな形になり、説明不足で（リスクについても）同意が出来ていなかった点があった。介護力向上講習会での事例対象者はもちろんであるが、日々のケアの中での変化をしっかりと家族に報告していく。そのために居室担当者を中心に職員全員が情報収集を行い、記録に残しケアの把握をしっかりと行う必要が課題となった。

エ 各グループ会議において「10分間スタディ」を行い、専門誌から知見を得、少しでも経験主義に陥らず、科学的ケアへの努力を行った。

(2) ショートステイについて

①忘れ物・業務の分担化 ②会議の定期開催 ③余暇時間の充実 ④家族との関係をポイントにおいて実践してきたが、成果としては、余暇活動について、うちだディサービスへ見学に行くなどの努力を行い、日曜日のPMを余暇時間に充てることとし充実とまではいかないが楽しめる時間を作りだせた。

家族との関係では、思ったほどの送迎への同行は出来なかったが、最近では家族送迎での利用者が増えているため、顔を合わせる事が多く、直接話を伺う事が出来るようになってきている。

(3) 機能訓練及び余暇活動への取り組み

カラオケは、毎週月曜日が2F、火曜日が3Fと定例化し、少しでも日常の楽しみが増えるような取り組みとなった。8月からはカラオケ指導者2人が月1回来園し盛り上げ役を担ってくれている。書道についても、7月から長年、書道ボランティアと担って大石恵心先生より松本静苑先生にバトンタッチされ、継続できるようになった。遊びリテーションについては機能訓練指導員が導入されたカラオケ機器を活用しながら、リハビリテーションの向上に努めている。同時に、介護職員において、主に入浴のない日曜日を活用し、全体あるいは各フロアで以下のような取り組みを行ってきている。

お花見・端午の節句・七夕・DVD鑑賞会・お祭り見学・花火大会・運動会・クリスマス会・節分・ひなまつりなど。

(4) 各グループ総括

◎2階「輝きグループ」

- ・各居室担当が水分1500ml以上の設定を行い、水分の増量の代わりに下剤の廃止を看護師へ依頼。Pトイレ、トイレ誘導を開始し、必要に応じてハブ茶の使用、水分の更なる増加等を行ってきた。利用者の歩行なども少しずつ開始した。

成果としては、「介護力向上研修参加前、オムツ使用者11名 夜間のみ3名（永眠者を含む）、目標設定後現在のオムツ使用者5名 夜間使用者なし」となった。

- ・目標としてあった全員の排便コントロールを行い、オムツを0にするという目標は達成できなかったが、職員の意識の変化によりオムツ使用を無くした利用者が6名という結果となり、オムツを外す事へといい方向へと向かっていると思う。

◎2階「大空グループ」

- ・ケアについては居室担当が発信し利用者にあったケアを他の職員にも呼びかける努力が出来ていたと思う。
- ・環境整備、整理整頓はおむつ外しの取り組みに伴い、水分・歩行に時間をかけるようになり不十分になったが、後半、見直し(CHECK)を行い、日曜日に声を掛け合い、清掃を意識して行い、歯ブラシなど汚れがあるものなどに配慮して、担当を通して交換するなど意識した取り組みが出来た。

◎3階「愛グループ」

- ・居室担当が主となり、利用者にあったケアを考え、「ケア検討」を活用し、朝のミー

- ティングで申し送ることで、常に職員全体でその利用者について考える事ができた。
- ・服薬ミスが続いていたが、「忘れるな指さし確認、声出し確認、飲み込み確認」という新たな目標を掲げ、毎朝確認し、服薬ミスを無くす取り組みを行うことで服薬ミスがなくなった。
 - ・介護力向上講習対象者 8 名の水分量アップと、歩行訓練を行う。(1 名は立位訓練と水分量アップ) その内 3 名が紙パンツから布パンツへと変更となった。
- ◎ 3 階「若さグループ」
- ・余暇時間について、日曜日をリクリエーションの日と決め担当をつけたことで、担当は意識してリクリエーションを考えて行うことができた。
 - ・25 年度は業務の見直しを行い、ショートの入入れと送り出しの業務分担を行った。そのことにより、従来の担当の負担軽減になり、受入れ、荷物チェックなど落ち着いてできるようになった。
 - ・ショートのお忘れ物については個々の意識が高まっており、以前よりも少なくなった。
 - ・若さグループだけでなく、愛グループも新館勤務を行うことで 3 階職員みんながショートと関わるようになり、少しでも情報の共有化ができたと思われる。
 - ・PC の「ケア検討」を活用しケア方法についてお互いの意見交換をすることができた。

3 相談員部門

(1) 入居者ベッド利用率の維持 (99.5%)

居宅介護支援専門員 (以下、CM) や入所先施設相談員等への働きかけ、家族へのこまめな連絡を実施し円滑な入所ができるよう努めた。男性入居申込者の割合が年々増している点を考慮し、男性ベッドを 2 床増床した。

1 月以降退所者が相次ぎ、入居者確保が追い付かない状況があり、先を見据えた対応が必要であった。

(2) 入居者・家族・各関係者からの声を吸い上げるための体制の整備

PC ソフト (ほのぼの) をこまめに確認し、入居者や家族その他関係者からの情報収集を実施すると共に、実際に「生の声」を聞く事を大切にした。その上で PC を主に情報共有と伝達体制の整備に努めた。入居者懇談会 (6 月、12 月) 家族懇談会 (6 月) を開催し、また面会時等に声をかけ、少しずつ信頼関係を築いていけるよう努めた。

(3) ボランティア受入の継続

小中学生ボランティア…7/20 夏祭り 6 名・11/17 運動会 8 名・12/22 クリスマス会 4 名があり、いずれも活動前に事前学習、活動後に振り返りの時間を設け、意味のある活動にするようにした。感染症流行期には受入を停止した。

(4) 入居受付業務の複数化対応

相談員不在時にも施設長、介護部長の協力を得て可能な限り受付を実施した。各連絡会や居宅 CM、他施設相談員との関わりの中で、申込み希望の際は事前連絡を依頼した。

事前連絡なしの飛び込み入居希望は割合的にはまだ多く、後日に来園依頼をする事も

あった。

(5) 預り金管理規程等に則った預り金、物品等の厳密な管理を行う。

預り金等の貴重品の管理、買い物については、複数の職員で関わりトラブルのないよう徹底すると共に金銭・通帳を預かっている残り2名の入居者については、家族や嘱託医師（精神科）とも連携し、返還の手続きの準備を進めている。

(6) 社会福祉施設の役割の実践

菊川市地域ケア会議でケースとして挙げられた男性1名（独居）、地域包括支援センターより依頼のあった女性1名（虐待）を入居に繋げた。また居宅CMや他施設相談員等からの困難ケースの入居依頼等に対しても、その状況や施設の主体的能力を考慮し柔軟に対応できるよう努めた。

4 医務室（看護）部門

(1) 介護職員の医療的知識・技術の向上のための研修指導について

1回目は8～10月で29名終了。2回目は12月以降進めたがインフルエンザの蔓延により指導の時間が取れず13名が終了したのみとなった。（医療的ケア推進委員会）

(2) 新規採用職員に医療的知識・技術の向上のための研修指導を行った。

(3) 感染症に関しては、感染症対策委員会でノロウィルスの勉強会を行い、インフルエンザのワクチン接種を実施（10月10日・24日・11月7日）した。12月29日から1月28日にかけてインフルエンザA型、2月10日からB型の罹患者対応を施設全職員の協働で行った。（感染症対策委員会・山崎嘱託医師）

(4) 看取りについては他職種で10月よりアンケートを行い、千寿の園での看取りに対する思いや今後の方法などの意見を出し合った。（看取り委員会）

平成25年度看取り加算取得人数-12/17人（24年度-12/23人）であった。

課題・成果は次に示すとおりである。

①看護業務内容のマニュアルは作成見直し途中であり、課題として残った。

②嘱託医師との対応については全てのナースが対応するところに至っていない。

③褥瘡対策と創処置では急激な悪化の際の記録や情報共有の為のパソコン入力や介護職員へ周知の遅れなどあり、対応策を再度確認した。（褥瘡予防対策委員会）

④家族との連携について、多くの家族が施設での看取りを希望し、施設を信頼し協力を受けられるような体制を取ってきているつもりであったが、家族によっては十分な理解をされていない場合もあり病状の悪化の際は迅速な症状報告が求められた。

⑤入居面接は看護師3人の交代で対応可能になり、家族や相談員の都合を優先できる形がとれてきている。

⑥フロア責任看護師は責任を持って行っており、各担当も日々の責任は持って勤務しているが、振り返りを含め利用者を継続的にみて意見を発信しているか？担当CWと相談協議しているか？となると十分ではなく課題である。

⑦特養ナースとしての知識・スキルの向上について、現状は、家族との対応・嘱託医

師との対応・訪問調査などを含め全利用者についての状態について、全看護師が全員、均一に出来るとは言えず、今後の課題としてある。

医務室内での学習会の開催は行えず、救急法なども進める事は出来なかった。

5 給食部門

(1) 食事の提供について

25年度は食事の楽しみを増やす事に重点を置き、見た目を楽しめるようフロアでの盛りつけを15回行った。また、環境面ではテーブルと椅子の高さの調整、車椅子から椅子へ移動、足を床につけての食事摂取など姿勢に注意を払った。

【行事食】4/1 開園記念日(赤飯・祝い饅頭)、5/5 端午の節句(ねぎとろ丼・真鯉饅頭)、7/7 七夕祭り(冷しそうめん)、7/22 土用の丑(うなぎ料理)、8/15 終戦記念日(すいとん)、9/24 お彼岸(おはぎ)、10/16 栗ごはん 10/31 松茸ごはん 11/23 勤労感謝の日(赤飯)、12/22 冬至(かぼちゃ料理)、12/25 クリスマス(チキンライス・スイーツバイキング)、12/31 大晦日(年越しそば)、1/1～3 正月(おせち料理・雑煮・赤飯・干支饅頭・甘酒)、1/7 七草粥、1/11 鏡開き(お汁粉)、1/15 小正月(小豆粥)、2/3 節分(節分ボーロ)、2/14 バレンタインデー(ティラミスケーキ)、3/3 雛祭り(ちらし寿司・甘酒)、3月お彼岸(ぼた餅)

【イベント食】6/27 鮎の塩焼き、7/20 夏祭り(選択食・お好み焼き・ソフトクリーム・駄菓子等)、8/8 流しそうめん、9/14 敬老祝賀会(握り寿司ライブ)、10/31 さんまの炭火焼き、11/29 焼き芋パーティ、1/24 餅つき、3/28 駄菓子屋さん

【利用者のリクエストメニュー】《ポテトフライ・トンカツ・サイコロステーキ》

(2) 実施してきた実践

①食生活改善委員会の活動として今年度は食事の楽しみを増やす事に重点を置き、まず見た目と香りで食事を楽しんで頂けるよう、フロアで食事の盛付を15回行った。また環境面ではテーブルと椅子の高さの調整、車椅子から椅子へ移動し、足を床に付け食事していただくよう心がけた。また、3月末に委員会を開催し給食委託業者チェックシートを作成した。

②季節の行事食は例年どおり行ない、イベント食については従来のイベント食に加え新たに「握り寿司ライブ」「クリスマス スイーツバイキング」「お好み焼き・甘酒パーティ」を取り入れた。また、今年度も利用者懇談会で出されたリクエストメニューの中から、カレーの辛口、サイコロステーキ、豚カツ、ポテトフライを献立に取り入れ利用者の希望に沿える食事の提供に努めた

6 各委員会活動報告

(1) リスクマネジメント委員会(事故防止・苦情解決・身体拘束廃止・褥瘡対策・個人情報) 12回(4/24-14・5/27-14・6/21-14・7/24-11・8/21-14・9/25-14・10/23-15・11/25-14・12/20-16・1/22-16・2/25-17・3/17-15)

・事故防止－毎朝のミーティングによる確認・医療過誤、介護過誤の資料作成、発表。

- ・ 苦情解決一投書箱、職員の声ボックスの確認・法人苦情解決委員会への報告。
 - ・ 身体拘束廃止、虐待防止ースピーチロック廃止の毎朝の呼びかけ、フットレストの確認。非常階段のブザーを外すなど拘束環境の低減への取り組み。
 - ・ 褥瘡対策ー褥瘡の原因と思われる物理的要因へのアプローチ等。
- (2) 感染症・食中毒対策委員会 6回開催(7/10・10/8・11/21・11/27・12/1・2/3)
- ・ ノロウイルス対応のワンポイントレッスンを職員全体で実施した。新人職員に対しても個別に感染症について研修を行った。
 - ・ 年末から2月にかけてインフルエンザA型・B型の感染を見、ショートの利用停止等で利用者、地域、職員にも広げてしまったことは極めて残念であった。
- (3) 看取り介護委員会 9回開催(5/27・7/24・8/21・9/25・10/23・11/25・12/22・1/22・2/25)
- 25年度は17名が死去し、12名について看取り加算を取得できた。うち8名の家族がショート空き部屋(101号室)を利用し看取りとしての付き添いができた。
- また、職員アンケートを聴取し、介看護職員が真摯に家族に向き合おうとする姿勢が把握できた。同時に身元引受人他家族において、点滴の要望を最期でも出されるなど、「生物学的死への理解」「死が自分達の身近な生活から遠くなっている現実」を目の当たりにし、今後の看取り期の取り組みとしての課題となった。
- 以下の委員会は開催状況だけ記す。
- (4) 医療的ケア対策推進委員会8回開催(7/24・8/21・9/25・10/23・11/25・12/22・1/22・2/25))
- ・ 経管栄養処置を夜勤がない職員にも指導でき、手技の水準を保つことが出来た。
- (5) 衛生委員会 8回開催(6/21・7/24・8/21・9/25・10/23・12/22・1/22・2/25))
- ・ 磐田労働基準監督署安全専門官の指摘や腰痛アンケートの実施を通じ、今後の取り組みへの課題が残った。
- (6) 食生活改善委員会 10回開催(4/30・5/27・7/24・8/28・9/25・10/23・12/20・1/22・2/25・3/26)
- ・ カレーや麺のかけ汁の盛り付けを利用者の前で行い、また、握り寿司ライブ、スイーツバイキングなどを行い、食べる意欲へ働きかける食事提供を実施した。
- (7) 広報委員会 9回開催(4/14・5/28・6/18・8/24・9/5・11/4・12/11・2/1・3/4)
- ・ デザインを変更し、明るく楽しい雰囲気で見守りの持てる広報紙を目指した。
- (8) 防災委員会 6回開催(4/16・4/24・5/27・8/31・10/15・12/1)
- ・ 毎月、避難訓練を行い、再編された自治会の「本通下自治会」と平成25年4月1日付けで防災相互協定を更新した。
- (9) 法人苦情解決委員会 1回開催(11/27) 堀尾孝・朝比奈りう子第三者委員出席
- ・ 苦情3件(千寿の園)・3件(居宅支援事業所) 計6件を報告。

第4 短期入所生活介護事業所

ショートステイ契約者・登録者総数は例年と変化はなく、平成25年度は、新規契約25名、終了者24名であった。終了者内訳は、永眠14名、他施設入所が10名で、うち4名が当施設入所であった。

稼働率は、4～9月の上半期は90%の稼働であったが、10月以降下半期は要介護度の高くリピート率の高い複数の利用者の利用終了、日中滞在の定員遵守、年末から2月にかけての感染症（インフルエンザ）の発症等により利用稼働の低下をみた。

送迎に関しては3名の送迎専門員が3年目を迎え、短期担当者と併せ4名体制で実施することにより、スムーズに業務遂行することができた。ただ、終了時送りの際、介護職員等の同行が現場の多忙な時間と重なることで、思うほどできなかったことと、朝の現場受け入れや忘れ物、利用者・家族からの苦情等があったことは、真摯に受け止め、職員各々が、「何をどうすれば」、「誰がどうやれば」を考え、見直し、周知徹底を図るという課題の残る一年であった。

第5 居宅介護支援事業所

- 1 自宅を始めとした生活の場で、安心と張り合いを意識した生活を支える事が概ね出来たとと思われる。今年度における支援終了者の内訳は、施設入所に至る件数は5名、入院による件数は4名、自宅看取りは3名となる。（平成26年2月18日現在）
- 2 医療を伴う支援について、入院が必要な際は病院における医療情報提供を始め、退院に向けたカンファレンスの開催を行い、在宅での生活や介護サービス等の調整の際は支援事業所のみならず、本人家族を交え検討する取り組みを行えた。
- 3 一人で問題を抱え過ぎる事無く、事業所として定期的な会議を行う事で、課題に取り組む体制を作る事が出来た。
- 4 混在していた資料の整理・ファイリングを統一し、業務の合理化やスリム化を図る事が出来た。
- 5 認知症キャラバンメイト、ケアマネ協議会会長・防災委員を担うと共に共同開催の研修としてロボットスーツHAL体験会、らくらく服薬ゼリー試飲会など、内部的な研修だけでなく、外部へ発信した形の研修を行い、事業所間等の相互に刺激をし合う良い学習機会となった。

千寿の園資料編

(平成25年度/平成26年3月31日現在)

特別養護老人ホーム千寿の園

1 介護度別利用(入居)者数

(平成26年3月31日現在)

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	1	1	1	6	6	15
女性	2	2	6	22	23	55
合計	3	3	7	28	29	70
割合(%)	4.3%	4.3%	10.0%	40.0%	41.4%	100.0%

平均要介護度	4.10	(男性	4.00	女性	4.13)
平成24年度	4.00	(男性	3.92	女性	4.02)

2 年齢別利用(入居)者数

(平成26年3月31日現在)

	64歳以下	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳以上	合計
男性	1	1	0	2	4	4	2	1	15
女性	1	1	0	4	12	16	11	10	55
合計	2	2	0	6	16	20	13	11	70

(平成25年3月31日現在)

	合計
男性	13
女性	57
合計	70

3 利用(入居)者平均年齢

(平成26年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	83歳1ヶ月	59歳11ヶ月	96歳0ヶ月
女性	87歳7ヶ月	61歳2ヶ月	100歳5ヶ月
合計	86歳7ヶ月	-	-

(平成25年3月31日現在)

	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	80歳2ヶ月	58歳11ヶ月	92歳1ヶ月
女性	87歳4ヶ月	60歳2ヶ月	99歳5ヶ月
合計	86歳2ヶ月	-	-

4 在所期間別利用(入居)数

(平成26年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	6	3	2	0	4	15
女性	12	11	11	6	15	55
合計	18	14	13	6	19	70

(平成25年3月31日現在)

	1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	4年以上	合計
男性	5	2	1	2	3	13
女性	14	12	7	9	15	57
合計	19	14	8	11	18	70

5 食事介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	22	31.4%
一部介助者	18	25.7%
介助なし	30	42.9%

(平成25年3月31日現在)

区分	人数	割合
全面介助者	16	22.9%
一部介助者	26	37.1%
介助なし	28	40.0%

6 入浴介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	51	72.9%
一般浴	18	25.7%
個 浴	1	1.4%

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
特別・中間浴	48	68.6%
一般浴	17	24.3%
個 浴	5	7.1%

7 排泄介助状況者数

(平成26年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	15	21.4%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	41	58.6%
歩行、杖等でのトイレ使用者	14	20.0%

(平成25年3月31日現在)

区 分	人数	割合
おむつ使用者	23	32.9%
紙パンツ又はトイレ介助者、 ポータブルトイレ使用者	39	55.7%
歩行、杖等でのトイレ使用者	8	11.4%

8 面会状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
人 数	148	211	200	180	208	181	165	178	191	154	149	166	2,131	2,477
1日平均人数	4.9	6.8	6.7	5.8	6.7	6.0	5.3	5.9	6.2	5.0	5.3	5.5	5.8	6.8

9 外出(帰省)状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
人 数	7	4	1	5	3	1	5	6	5	3	4	5	49	56
日 数	7	4	1	7	3	1	5	6	8	3	4	5	54	63

10 入居・退去状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	平成24年度
入居者数	1	1	0	0	2	2	1	3	2	3	1	3	19	23
退去者数	1	1	0	0	2	2	2	2	2	5	1	1	19	21
月末在籍者数	69	69	68	70	70	70	70	70	70	69	69	70	834	69.25

(平成25年度)

性 別	入 居			退 去			平成24年度			
	男 性	女 性	合 計	男 性	女 性	合 計	入 居	退 去		
人 数	6	13	19	4	15	19	24	21		
入居前及び 退去時の状況	居 宅		10	死 亡		17	居宅	12	死亡	17
	病 院		1	他施設・長期入院		2	病院	4	他施設 長期入院	2
	施設(老健等)		8	居 宅		0	老健等	8	居宅	0

11 苦情受付状況

1) 苦情受付件数

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
苦情受付件数	1	0	0	0	0	1	1	0	1	2	1	1	8	3

2) 苦情の分類一覧

(平成25年度)

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	6
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	2
合計	8

平成24年度

苦情の分類	件数
ケアの内容に関わる事項	1
個人の嗜好・選択に関わる事項	0
他の利用者・職員に関わる事項	0
面会者に関わる事項	0
財産管理等に関わる事項	0
施設内規に関する事項	0
その他	2
合計	3

12 他医療機関への受診状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成24年度
内科	3	3	2	3	6	1	1	1	2	4	3		29	26
精神科													0	3
脳外科											1	2	3	10
整形外科	3	4	1	1	1	3	3	2	3	3	2	1	27	18
外科							1						1	1
泌尿器科	1		1			1			1			1	5	7
眼科			1	1				1			1	1	5	6
皮膚科	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	15	24
歯科	3	1	2	5	2	4			2		5	2	26	9
合計	11	9	8	11	10	11	6	5	9	8	13	10	111	104

13 入居者・利用者医療状況

1) 入院状況

(平成25年度)

治療科	人数	治療科	人数	平成24年度	
内科	9	泌尿器科	0	4	0
循環器科	0	整形外科	0	0	2
外科	0	精神科	0	0	1

2) 処置状況

(平成26年3月31日現在)

処置状況	人数	処置状況	人数	平成25年3月31日現在	
経口与薬	66	経管栄養	4	65	4
創傷処置	16	バルーンカテーテル挿入	0	5	0
軟膏塗布	20	浣腸、摘便	16	12	16
点眼	9			6	

3) 嘱託医師定期外往診状況()は電話指示依頼
(平成25年度)

月	回数	月	回数	平成24年度	
4月	2(4)	10月	2(5)	2(5)	1(3)
5月	1(5)	11月	2(7)	3(16)	1(2)
6月	0(3)	12月	2(6)	6(14)	0(3)
7月	0(4)	1月	5(25)	1(5)	5(25)
8月	2(7)	2月	0(8)	1(2)	1(4)
9月	1(2)	3月	0(6)	1(2)	1(13)
合 計			17(82)	22(77)	

4) オンコール出勤回数・()は電話対応のみ回数
(平成25年度)

月	回数	月	回数	平成24年度	
4月	1(4)	10月	2(3)	2(4)	1(3)
5月	1(4)	11月	2(3)	2(4)	0(2)
6月	0(1)	12月	3(0)	6(8)	1(3)
7月	0(1)	1月	3(7)	1(6)	2(1)
8月	4(6)	2月	2(7)	1(2)	2(4)
9月	1(3)	3月	0(2)	0(3)	3(11)
合 計			19(41)	21(51)	

14 所在状況

(平成26年3月31日現在)

保険者名	在籍者数	入居・退去状況		平成25年3月31日現在		
		入居	退去	在籍者数	入居	退去
菊川市	59	18	16	57	19	16
掛川市	7	1	1	7	3	5
牧之原市	1	0	1	2	1	0
島田市	2	0	0	2	0	0
浜松市	1	0	0	1	0	0
その他	0	0	1	1	0	0
合 計	70	19	19	70	23	21

15 入居申込み(待機者)状況

(平成26年3月31日現在)

市区町名	申込者数	平成25年3月31日現在
菊川市	238	213
掛川市	20	17
御前崎市	3	1
静岡市	1	1
島田市	3	3
牧之原市	2	1
磐田市	2	2
県外	4	3
合 計	273	241

16 ボランティア(慰問)状況

(平成25年度)

月 日	団体名(代表者名)および個人名	内 容
4/9~3/11	ハーモニー青葉 計8回	ハーモニカ演奏と利用者と一緒に歌う
4/10~7/10	書道ボランティア 計4回	書道指導
7/10~3/12	書道ボランティア 計7回	書道指導
4/24~8/20	音楽ボランティア 計5回	音楽クラブ・御詠歌等を歌う
4/12~3/28	傾聴・おはなしボランティア 計21回	利用者とのコミュニケーション
8/12~3/10	カラオケ(2名) 計8回	利用者と一緒にカラオケで歌を歌う
9/19~12/26	カラオケ(2名他) 計24回	利用者と一緒にカラオケで歌を歌う
4月21日	なかよし会	日本舞踊披露
7月20日	小学生ボランティア6名	行事(夏祭り)のお手伝い
8月25日	たのしみ会	日本舞踊披露
10月19日	3丁目・4丁目・5丁目上自治会	菊川市祭典・踊り披露
11月17日	小学生ボランティア10名	行事(運動会)のお手伝い
12月8日	菊川ボーイスカウト(ビーバー・カブ)	子ども達による歌、踊り、手品等記念品贈呈
12月22日	小学生ボランティア4名	行事(クリスマス会)のお手伝い
12月24日	音楽ボランティア	蓄音機を使用したレコード演奏会

17 ボランティア(奉仕)状況

(平成25年度)

団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数	団体名(代表者名)および個人名	内容	年間日数	延人数
民生・児童委員	清掃	6	12				

18 事故調査状況

(平成25年度)

<所見>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平成24年度
転倒・転落	骨折													0	0
	創傷				1	1			1			1	2	6	4
	熱傷													0	0
	打撲			1		2		3	1	1	1			9	9
	表皮剥離			1		1	1							3	8
	その他			1	2			1		1				5	8
	外傷なし			5	7	5	2	5	4	1	6	1	10	46	77
	内出血					1		1						2	8
	異常なし			2	1	1			3				3	10	25
外傷	8	13	11	21	15	19	16	14	5	13	11	12	158	176	
誤嚥・誤飲			1	1			1				1		4	5	
誤薬	2	1	2		3	3							11	7	
投薬ミス	2	4	9	4	4	4	3	1	1		1	3	36	47	
異食				2			2		2				6	6	
器物破損			2	3	1		2				1		9	13	
利用者同士のトラブル						1	2						3	9	
忘れ物			2	3	2	1	1		2	1			12	11	
その他			1				1						2	36	
合計	12	18	38	45	36	31	38	24	13	21	16	30	322	449	

23年度と24年度の集計内容・方法が違うため、23年度は未記載とする。

19 実習状況

(平成25年度)

学校名等	実習名	年間延回数	延人数	平成24年度	
東海福祉専門学校	介護福祉士単位実習	3	6	3	4
〃	希望実習	1	1	5	6
TAP	ヘルパー初任者研修	4	4	4	4
静岡市歯科衛生士専門学校	歯科臨池実習	2	4		
合計		10	15	12	14

20 短期入居生活介護利用状況

(平成25年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
利用者人数	48	41	48	52	49	44	46	47	44	41	33	41	534	566
総利用者数	266	275	281	290	284	267	243	223	237	219	142	226	2,953	3,083

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均利用率	平成24年度
1日平均	8.8	8.8	9.3	9.3	9.1	8.9	7.8	7.4	7.6	7.0	5.0	7.2	8.1	8.10
送迎回数	93	84	95	108	104	95	93	102	104	86	60	92	93	96

21 居宅介護支援事業所利用状況(平成26年3月31日)

1) 新規登録者(要介護度者+要支援者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
男性	0	1	0	0	1	1	0	1	4	1	0	0	9	6
女性	3	0	1	0	5	0	1	0	0	1	1	0	12	8
合計	3	1	1	0	6	1	1	1	4	2	1	0	21	14

2) 要介護度契約者(介護度別1~5)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
新規実績	4	1	1	0	0	4	2	1	0	5	1	0	19	18

3) 契約終了者(死亡及び施設入所等者)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
男性	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	4	9
女性	0	0	2	0	1	2	0	1	0	2	1	1	10	10
合計	0	1	2	1	1	2	0	1	1	3	1	1	14	19

4) 介護度別実績契約件数

ケアマネジャー2人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
要介護1	29	27	25	24	23	24	26	25	25	26	23	23	300	313
2	18	19	19	18	18	18	18	19	18	21	24	25	235	206
3	10	12	14	13	13	14	14	14	12	15	14	11	156	124
4	8	8	7	8	9	10	8	8	6	7	8	8	95	89
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10	27
合計	66	67	66	64	64	67	67	67	62	70	69	67	796	759

5) 包括支援センターより介護予防委託実績件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成24年度
件数	8	8	8	8	8	9	10	11	11	10	10	10	111	96